



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2022年
7月11日
発行

第140回

「私が見たアベノミクス」

～安倍元首相を偲んで～

安倍晋三元首相が亡くなりました。自分は西村証券に入社する以前から安倍氏の政策などについて深い関心を持っており、このレポートでも何度か取り上げさせて頂きました。今回は、その中でも安倍氏の政策などを良く分析できていると自負している2020年6月29日・7月6日発行「アベノミクス再起動（前編：日本初のCEO型リーダー、後編：長期的な課題への対応）」を加筆訂正したものを掲載して、安倍氏へのお別れとさせて頂きます。

初めに

「アベノミクス」は第二次安倍政権の経済政策です。開始直後は脚光を浴びましたが、今では名前を聞くことも少なくなりました。おそらく「金融緩和は効果があったがそれだけ」というのが一般的なアベノミクスの評価だと思います。しかし、私はそうは思いません。見るべき点が多く、後継政権もこれを踏襲して欲しいと考えています。アベノミクスの優れている点は3つあります。①日本初のCEO型リーダー、②全員参加の経済政策、③長期的な課題への対応、の3つです。以下順に説明いたします。

CEO型リーダー

海外ではアベノミクスが始まる以前から、CEO型リーダーなどと呼ばれる国のトップが現れ始めていました。ドイツのメルケル首相、韓国の李明博（イ・ミョンバク）大統領などがそうです。こうしたリーダーには外遊の際に大勢の自国の財界人が随行し、訪問先で取引をまとめました。いわば国のトップがセールスの役割を果たしている訳です。トップセールスは特に金額が大きく、公共性がある案件で効果を発揮します。例えば原発や鉄道などがそうですが、安倍氏は日立の英国向け鉄道車両の案件などで実績を挙げています。これまで日本にこうしたトップはいなかったので、安倍氏は日本初のCEO型リーダーと言えるでしょう。

官民一体での経済成長の追求

CEO型リーダーのもう一つのメリットは、リーダーと財界人の意思疎通が容易になり、官民連携した経済政策の策定が可能になることです。財界人が要望をリーダーに伝え、政府が素早く対応することができれば、日本経済や企業の競争力は一段と高まるでしょう。そうした可能性のあることもCEO型リーダーのメリットです。

(裏面へつづく)



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。

全員参加型の経済政策

アベノミクスの特徴の一つは全員参加型という点にあります。例えば、成長戦略は様々な産業に数値目標を設定していますが、農業に対しても農産物輸出1兆円という目標が設定されています。一時は達成可能に見えましたが届かなかったようです（注1）。農業のように一見見過ごされそうな分野にも課題を与えて全員参加を促す点もアベノミクスの特徴の一つです。

注1) 2022年2月4日、農林水産省は2021年の農林水産物・食品の輸出額が1兆2385億円と初めて1兆円を突破したと発表した。

インバウンドはアベノミクスの最大の成功例

インバウンドはアベノミクスの最大の成功例です。これまで日本の旅行業界では、日本人の海外旅行をアレンジすることがほとんどであり、外国人を日本に連れて来るという発想はありませんでした。しかし、円安や中国などにおける所得の増加が追い風になり、大勢の外国人観光客が日本に押し寄せたことは記憶に新しいと思います。このように、インバウンドは外国人観光客の誘致というタブーに挑戦したアベノミクス最大の成功例になりました。

長期的な課題への対応～拡大アベノミクス～

アベノミクスが始まった頃の日本経済はバブル破裂以来の長期低迷から抜けられず、「失われた20年」と呼ばれていました。しかし、アベノミクスの効果や世界的な景気の好調などを追い風に日本経済も持ち直したことから、安倍氏はより長期的な課題への対応に乗り出しました。私はこれを「拡大アベノミクス」と呼んでいます。長期的な課題としては次のようなものが挙げられます。少子化、外国人労働者の受け入れ、女性の社会進出、働き方改革、などです。

タブーへの挑戦

少子化対策と外国人労働者の受け入れは長らく日本社会においてはタブーとされるものでした。前者については、女性は子供を産む機械かという反発を招く恐れがあり、後者については、今でも日本社会では移民へのアレルギーが強いと指摘されています。安倍氏もこうした点には配慮しながらここまで物事を進めて来ています。そのため今のところ目立った進展はありませんが、こうした課題に着手したことは評価できると思います（注2）。一方、女性の社会進出については、安倍政権が取り上げるようになってかなり進んだと考えています。企業で女性の役員は珍しくなくなりました。また、働き方改革については現在テレワークに関する議論が活発になっていますが、既にアベノミクスの政策としては導入されており、今後どういったテレワークを目指すのかが企業の課題です。

注2) 2022年4月より不妊治療に保険が適用された。

アベノミクスを支えるもう一つの「三本の矢」

アベノミクスの「三本の矢」は、金融政策・財政政策・成長戦略ですが、自分は安倍内閣にはもう一つの「三本の矢」があったと思います。それは、安倍首相を支え続けた麻生副総理・菅官房長官・甘利経済財政再生相（いずれも当時）の三人です。麻生氏は副総理として安倍氏を支え、菅氏は官房長官として内閣の要の役割を果たし、甘利氏は舌がんを患っていたにもかかわらず経済財政再生相として安倍氏の要請に応じてその役にとどまりました。この三人がアベノミクスを支えたのだと思います。

終わりに

ここまで、自分なりに安倍氏から教えられたこととお話しさせて頂きましたが、これは安倍氏がやってこられたことのごく一部に過ぎないと思います。

最後に、このようなことになって残念です。ご冥福をお祈りいたします。